

2018

3.10 土

13:00 - 16:00

開場・受付 12:30

於・北海道大学 工学部
フロンティア応用科学研究所棟 2F
レクチャーホール(鈴木章ホール)

遠くて近きは

人と動物の“ほどよい”距離感

北海道大学 CoSTEP修了式公開シンポジウム



登壇者

- 池田 透 さん | 北海道大学大学院 文学研究科 教授
出島 誠一 さん | 日本自然保護協会 自然保護部副部長・生物多様性保全室長
大西 純子 さん | ピースワンコ・ジャパン プロジェクトリーダー

司会

- 池田 貴子 | 北海道大学 CoSTEP 特任助教

シンポジウム参加申込はコチラ

 同日午前10時より、2017年度CoSTEP成果発表会を開催します。1年間の学びの成果を、ステージ発表とボスター発表でお届けします。シンポジウムとあわせて、お申込のうえご参加ください。
<https://goo.gl/CMrGmo>

登壇者に訊いてみたい事、ありませんか？

 シンポジウム後半のパネルディスカッションのテーマを募集します。人と動物との関わり方について、ご質問やご意見がありましたら、フォームからご投稿ください。
<https://goo.gl/9V6KWu>



気配はすれども姿は見えぬ——。童謡や民話に登場する動物たちは、人とはぶつかり合うことのない、“遠くて近き仲”でした。

その、人と動物との距離感が、いま急速に変わりつつあります。山の熊が里に下りてきて人を襲ったり。または身を隠していたはずの狐が、市街地の真ん中に出てきて人に吠え立てたり。さらには、遠い国から人に害を為す虫たちが襲来してきています。

ですが、彼らは本当に“襲来”したのでしょうか？ほどよい距離感を踏み越えたのは、果たして動物たちなのでしょうか？人の経済活動やライフスタイルの変化に伴って、守るべき対象だった動物が害獣になったり、招かれざる外来生物がいつの間にか隣に忍び寄っています。私たちは同じ動物であっても、あるときは保護し可愛がり、あるときは駆除に頭を悩ませ、その関係性の変化に右往左往しているのです。

このシンポジウムでは、人と動物との関係性のさまざまな事例を見ながら、私たちにとって“理想的な”生態系とは何なのか、そして“ほどよい”距離感とは何なのか、“共生”という言葉の意味を考えながら、皆さんと一緒に探ります。



池田 透 (いけだとおる)

北海道大学大学院 文学研究科 教授

保全生態学者。かつては都市に進出するキツネの生態を中心的に研究していたが、北海道における外来種アライグマの定着に危機感を覚え、アライグマ研究を開始。害獣としての性格も持つアライグマの生態を解明するとともに、防除に取り組む。



出島 誠一 (でじま せいいち)

日本自然保護協会 自然保護部副部長・生物多様性保全室長

群馬・新潟県境の国有林「赤谷の森」で、日本自然保護協会、林野庁、地元協議会の三者で2004年から進める生物多様性復元プロジェクト「AKAYAプロジェクト」の運営を担う。生態系の頂点に立つイヌワシやクマタカを指標に、生物多様性を軸にした科学的な管理手法と、未来の森のあり方について多様なステークホルダーで対話する合意形成手法の2本柱でプロジェクトを進めている。



大西 純子 (おおにしじゅんこ)

ピースワンコ・ジャパン プロジェクトリーダー

国内外の人道支援を行なう認定NPO法人「ピースワインズ・ジャパン」の事業の一つとして、イヌ・ネコの殺処分ゼロを支援する「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトをスタート。広島県で殺処分が決まったイヌを保護シェルターに引きとり、一般家庭への譲渡活動を行なう一方、災害救助犬やセラピー犬、さらにイノシシやサルから農作物を守る「里守犬」の育成に取り組む。



北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター
科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP・コースティップ)
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 TEL & FAX : 011-706-5320
E-MAIL : costep_office@ml.hokudai.ac.jp http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp

北海道大学 CoSTEP 修了式 公開シンポジウム

遠くて近きは—— 人と動物の“ほどよい”距離感

12:30 開場・受付開始

13:00 開会

趣旨説明 池田 貴子

13:20 話題提供1 池田 透 さん

13:50 話題提供2 出島 誠一 さん

14:20 話題提供3 大西 純子 さん

14:50 休憩

15:00 パネルディスカッション

16:00 閉会



池田 貴子 (いけだ たかこ)

北海道大学 CoSTEP 特任助教

キツネからヒトにうつるエキノコックス疫学の観点から、都市や里山に生息するキツネの生態を専門に研究する。